

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

臨床試験部長就任のあいさつ



臨床試験部長

安藤 正志

2017年5月1日より、臨床試験部長を拝命いたしました安藤正志と申します。

新しい薬や手術、放射線治療などを用いた新しい治療、あるいはそれらを組み合わせた治療法に対して、その効果と安全性を確認するために行われる試験のことを臨床試験と呼びます。予め決められたルールに従い計画的に試験を行なうことで、科学的に評価することが可能となります。

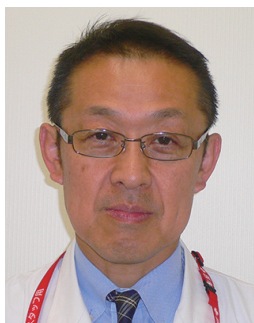
臨床試験には、I～IIIの3つの段階があり、最終段階である第III相試験では、最新の治療が従来の治療と比べてより良い治療かについて比較します。現在、受けている治療も臨床試験で評価され、最善と考えられる治療が選択されています。さらに、臨床試験には、厚生労働省による医薬品や医療機器の承認を目的として行われる試験があり、「治験」と呼びます。現在、私たちが日常診療で処方する薬は「治験」という臨床試験で効果と安全性が確認され、国に承認されたものです。

臨床試験は、参加していただく患者さんのご協力が必要不可欠ですが、参加した患者さんを守るために研究者などが、自分たちの都合の良いように効果や安全性の評価などを行わないように規準や規制などが定められています。さらに、試験の内容が倫理的かどうか、第三者が審査（倫理審査委員会）を行っています。

当院の臨床試験部では、治験を含む臨床試験において、参加される患者さんおよび試験を担当する医師などに試験が円滑に行うことができるように様々な支援を行っております。参加される患者さんへの支援は、臨床研究コーディネーター（CRC）が担当します。当院では、治験の実施数が多く（2016年度は、38治験を新規に実施）、臨床試験を通じて、新しい治療を受ける機会を提供させて頂くよう、今後も努力して参ります。

始まりました『病棟薬剤業務』

中央病院～薬剤部～



薬剤部
指導科長

松崎 雅英

病院薬剤師の仕事は、昔は調剤業務が大半でしたが、「服薬指導」という薬の説明を通して患者さんの治療への参加を促すような指導業務が加わり、さらには、患者さんの困ってみえることや副作用の発現状況などを確認し、医師、看護師と協働して、より安全に治療が継続できるように支援する業務へと変わってきています。

当院でも、この4月に薬剤師を増員し、各病棟に「専任の薬剤師」を配置して、「病棟業務」の取り組みを始めました。

まずは、入院の際に持参された薬の種類や服用状況をお尋ねしたり、アレルギーや副作用歴の確認を行い、これらを医師へ報告し、これからの治療での薬の提案を行っています。

また、病棟での薬の保管管理や個々の患者さんの薬の投与量の確認を看護師と協力して行うなどして安全な薬の使用に努めています。

すべての病棟で一日中薬剤師が常駐することはできませんが、これまでよりも薬剤師の病棟滞在時間が長くなったことで、患者さんのもとへ訪問する機会も多くなります。病棟ごとに薬剤師に求められる内容に違いもあると思いますが、患者さんにとって効果的な薬物療法が行われ、安心して薬を使用していただけよう、医師を始め他の医療スタッフと連携して業務を進めていきます。



持参薬鑑別中



患者さんと面談中

新任医師 の 紹介

頭頸部外科部
別府 慎太郎

私は生まれも育ちも愛知です。この愛知県がんセンターという場所で、中部地区の患者さんへ貢献できることに感謝しております。入院から外来通院まで、患者さんの心配や苦痛が少しでも和らぐようにと努めて参ります。よろしくお願いいたします。



平成29年度 愛知県がんセンター公開講座

◇開催日及びテーマ

回	開催日時・場所	定員	テーマ	講師
1	平成29年5月13日(土) (愛知県産業労働センター) ウイנקあいち 5階小ホール1 14:00~ 終了 (開場13:30)	参加人数 181名	講演「 隣がんを知ろう! 」 ①診断と最新の内視鏡技術 ②隣がんの外科治療の進歩 ③隣がんの抗がん剤治療—最新の知見—	司会：副院長兼消化器外科部 部長 清水 泰博 消化器内科部 部長 原 和生 消化器外科部 医長 千田 嘉毅 消化器内科部 医長 水野 伸匡
2	平成29年7月29日(土) (愛知芸術文化センター) 12階 アートスペースA 14:00~ 16:00 (開場13:30)	200名	講演「 サルコマーセンターと がんリハビリテーション 」 ①サルコマーセンター開設 ②軟部肉腫の薬物療法 ③がん患者さんのためのリハビリ ④がんリハビリテーションについて	司会：副院長兼頭頸部外科部 部長 長谷川 泰久 整形外科部 部長 筑紫 聡 薬物療法部 医長 安藤 正志 リハビリテーション部 部長 吉田 雅博 名古屋大学医学部保健学科 教授 杉浦 英志
	平成29年8月3日(木) (がんセンター研究所) 北館3階セミナー室 9:00~ 17:00	14名	高校生向け 基礎実験体験講座 テーマ「 がん遺伝子のはたらきを見てみよう 」 ~がん細胞を狙い撃ち! くすりではたらきは抑えられる~	
3	がん征圧月間 【がん征圧講演会】 平成29年9月2日(土) (中央病院 国際医学交流 センター) 14:00~ 16:30 (開場13:30)	350名	講演「 ゲノム医療の実用化に向けて 」 ①ゲノム(遺伝子)から考えるがん医療(仮) ②バイオバンクで実現する医療(仮) ③愛知県がんセンター遺伝性腫瘍診療の現状(仮) ④遺伝性腫瘍の基礎知識—遺伝カウンセリングって何?—	司会：分子病態学部 部長 青木 正博 遺伝子病理診断部 部長 谷田部 恭 遺伝子医療研究部 室長 伊藤 秀美 副院長兼乳腺科部 部長 岩田 広治 認定遺伝カウンセラー 高磯 伸枝
	平成29年9月2日(土) (がんセンター研究所) 12:00~ 13:30	30名	研究所見学ツアー ●ガイダンス ●所内案内 ●機器の説明	
4	平成29年11月25日(土) (中央病院 国際医学交流 センター) 14:00~ 16:00 (開場13:30)	350名	講演「 進化する肺がんの治療法 」 ①肺がんの最新の知識 ②広がる肺がんの内科治療(精密医療と免疫治療) ③高齢者にやさしい定位放射線治療 ④最新の肺がん手術について	司会：中央病院長 丹羽 康正 呼吸器内科部 部長 樋田 豊明 呼吸器内科部 医長 渡辺 尚宏 放射線治療部 医長 富田 夏夫 呼吸器外科部 医長 水野 鉄也
5	平成30年2月17日(土) (中央病院 国際医学交流 センター) 14:00~ 16:00 (開場13:30)	350名	講演「 がん免疫療法の新しい展開 」 ①がん免疫療法の基礎知識—免疫とはどんな仕組みですか?—(仮) ②胃がんをはじめとする消化器がんの免疫療法 ③難治性頭頸部がんに対する免疫療法	司会：中央病院長 丹羽 康正 腫瘍免疫学部 部長 葛島 清隆 薬物療法部 部長 室 圭 頭頸部外科部 医長 鈴木 秀典

◇受講料及び受講対象 無 料 ・ どなたでも受講できます。 ※「高校生向け 基礎実験体験講座」は高校生が対象です。

◇申込み 申込不要 ※ 事前の連絡および申込等は必要ありません。当日は直接会場までお越しください。

※ 「高校生向け 基礎実験体験講座」の申込は終了しました。

※ 「研究所見学ツアー」は事前申込が必要です。

申込期間：平成29年7/24(月)～8/7(月) 当日消印有効

◇その他

- 当日は駐車場が混雑しますので、公共交通機関を御利用ください。
- この内容は、愛知県がんセンターホームページでも御覧になれます。
- 申し込みいただいた方の個人情報、当該目的以外に使用しません。

【問い合わせ先】

愛知県がんセンター 運用部経営戦略室 公開講座係

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

*TEL(代表) 052-762-6111 (内線2521) *FAX 052-764-2963

*公開講座ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/cc/03kouza/index.html>

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな1頁

とうろく医探訪 No.4

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

医療法人名古屋放射線診断財団

東名古屋画像診断クリニック 理事長：岩田 宏 先生



日頃よりがんセンターの先生方、職員の皆様におかれましては、病診連携を通じ、お世話になり、誠にありがとうございます。

私ども東名古屋画像診断クリニックはがんセンターの敷地内にPET-CTを中心とした画像診断専門の診療所として平成20年に開院し、来年1月にはおかげ様で開院10周年を迎えようとしています。この間、PET-CT検査ではがんセンターからのご依頼を中心に全国でもトップクラスの症例数（28年度実績5391件※

保険診療のみ）を積み重ねるとともに、CTやMRI検査においても地域の開業医の先生方からも本当に多くの検査のご依頼をいただいております。

また一昨年には低線量CTを、昨年には乳房専用PET装置を新たに導入・臨床利用を開始するなど、最先端技術への取組も積極的に行っており、参りました。

今後も画像診断専門の診療所として、がんセンターや地域の開業医の先生方の一助たるべく、尽力して参る所存でございます。



【医療機関情報】

医療法人名古屋放射線診断財団
東名古屋画像診断クリニック

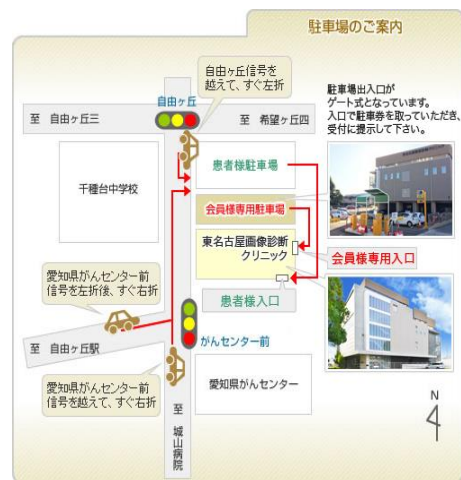
診療科目／放射線科、内科

電話／052-764-1711

所在地／464-0044 名古屋市千種区自由ヶ丘 3-4-26

URL／<http://www.nagoya-pet.com/higashi/>

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	/	○	○	○	○	○	/
午後	0:00-5:00	/	○	○	○	○	○	/



編集後記：第4回は東名古屋画像診断クリニック、岩田先生です。PET検査等で当院が大変お世話になっております。エントランスを抜けますと受付の方が親切丁寧に接客してくださり、ホテルのラウンジのようで安心します。これからもよろしくお願ひ致します！<Y.SANO>

大腸がん細胞の新しい転移メカニズムを発見

～ブレーキの故障が大腸がん細胞の暴走（転移）を引き起こす～

研究所～分子病態学部～



分子病態学部長
青木 正博

がんの治療を難しくする原因はいろいろ挙げられますが、転移はその代表的なものといえます。転移とは、がん細胞がもとの発生した臓器から他の臓器に移動してそこで増殖することです。大腸がんの場合も他臓器への転移を伴っていると治療は難しくなりますが、残念ながら大腸がん細胞が転移するメカニズムは十分に解明されておらず、転移を制御することは極めて困難な状況です。私たちはこの問題に、最新の遺伝学的手法と実験動物（マウス）を使って取り組み、HNRNPLLというタンパクが大腸がん細胞の転移を阻止するブレーキのひとつとして働くことを世界ではじめて見つけました。HNRNPLLによるブレーキが外れると、CD44v6というタンパクが産生され、大腸がん細胞が周囲の組織に侵入しやすくなります。さらに、ブレーキが外れるメカニズムとして、がん細胞を悪性化させる要因として知られている上皮間葉転換という現象によって大腸がん細胞のHNRNPLLが減ってしまうことも明らかになりました（図1）。この研究成果を転移の抑制・予防を目的とした薬剤の開発へとつなげることを目指して、さらに研究を続けています。本研究は、中央病院・消化器外科部、遺伝子病理診断部との共同研究として行われました。研究論文は、英国消化器病学会が発行する消化管病学・肝臓病学の専門誌「Gut」にオンライン先行公開され、平成29年4月12日発行の中日新聞および読売新聞の朝刊に取り上げられました。

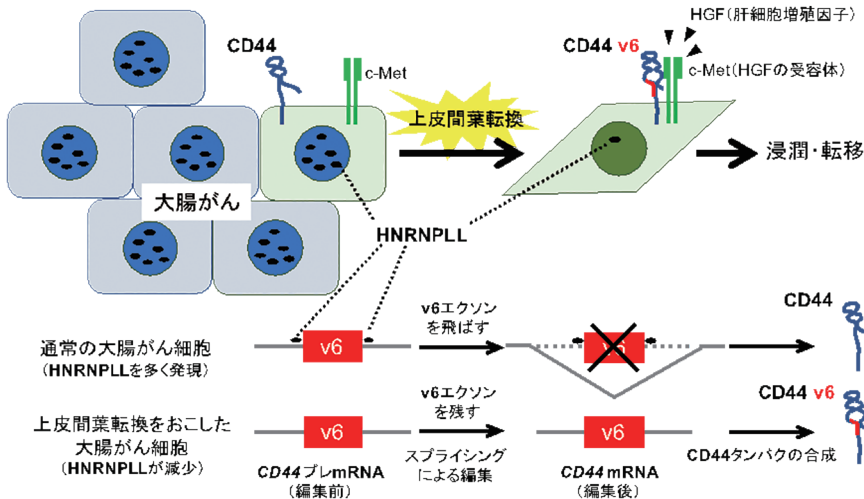


図1. 通常の大腸がん細胞では、HNRNPLLが多く発現しているため、CD44タンパクにはv6という部分が含まれません。一方、上皮間葉転換をおこした大腸がん細胞では、HNRNPLLの量が減少するためにv6を含んだCD44（CD44v6）が産生されます。このCD44v6は、細胞膜上でHGF（肝細胞増殖因子）の受容体であるc-Metと結合し、HGFの作用を強めることで、大腸がん細胞の周辺組織への浸潤や転移を助けます。

研究員の紹介 ◆ 研究所～腫瘍免疫学部～

腫瘍免疫学部では、生体が持っている免疫の力を利用して、がんを縮小・消失させる新しい治療の開発を目指して研究を進めています。これまで、がん細胞を殺傷する能力の高い細胞傷害性Tリンパ球（いわゆるキラーT細胞）の研究を主に進めてきました。現在は、キラーT細胞ががん細胞を識別する際に働く分子「T細胞受容体」を遺伝子操作で改良する研究、およびキラーT細胞にがん抗原を提示するメカニズムの研究を行っています。



写真：前列左から、柴田修汰（技師）、葛島清隆（部長）、岡村文子（研究員）
後列左から、寺田理恵（技師）、太田里永子（研究員）、権藤なおみ（連携大学院生）

主要血管・神経に隣接する軟部肉腫に対する機能温存手術 強度変調放射線治療（IMRT）併用広範切除手術の取り組み 中央病院～整形外科部～



整形外科部長
筑紫 聡

本院整形外科部は平成6年の開設以降、中部地区の肉腫治療のセンターとして活動を続けています。肉腫の適切な診断と治療には整形外科医・病理医・薬物療法医・外科医・放射線科医・形成外科医を含めた医師が科の枠を越えてチーム医療を行う「専門施設での集学的治療」が必須で、症例を専門施設に集約して行うことが望まれています。このような背景から平成28年10月に中部地区で初めてサルコーマセンターを開設しました。

肉腫の最大の特徴は、画像でみえる範囲より組織学的に浸潤していることです。そのため根治治療には正常組織を含めた広範切除が欠かせません。主要な血管や神経が隣接している場合にはこれらの合併切除が必要となり、術後の大きな機能障害が必発となります。当科では以前より血管鞘や神経鞘を丁寧に剥離することで切除縁を確保する機能温存手術に取り組んでいます（図1）。さらに2015年7月より四肢および表在体幹部発生の軟部肉腫に対して、放射線治療部との連携のもとIMRT併用の広範切除術を導入しました（図2）。IMRTは従来の放射線治療と異なり、複雑な腫瘍の進展に対してより正確に照射が可能で、重要な正常組織への影響を最小限にすることが可能となります。日本では肉腫に対してはほとんど普及されておらず、これらの併用手術が良好な局所制御率と術後機能温存に大きく貢献すると期待されています。

本院整形外科部は平成6年の開設以降、中部地区の肉腫治療のセンターとして活動を続けています。肉腫の適切な診断と治療には整形外科医・病理医・薬物療法医・外科医・放射線科医・形成外科医を含めた医師が科の枠を越えてチーム医療を行う「専門施設での集学的治療」が必須で、症例を専門施設に集約して行うことが望まれています。このような背景から平成28年10月に中部地区で初めてサルコーマセンターを開設しました。

肉腫の最大の特徴は、画像でみえる範囲より組織学的に浸潤していることです。そのため根治治療には正常組織を含めた広範切除が欠かせません。主要な血管や神経が隣接している場合にはこれらの合併切除が必要となり、術後の大きな機能障害が必発となります。当科では以前より血管鞘や神経鞘を丁寧に剥離することで切除縁を確保する機能温存手術に取り組んでいます（図1）。さらに2015年7月より四肢および表在体幹部発生の軟部肉腫に対して、放射線治療部との連携のもとIMRT併用の広範切除術を導入しました（図2）。IMRTは従来の放射線治療と異なり、複雑な腫瘍の進展に対してより正確に照射が可能で、重要な正常組織への影響を最小限にすることが可能となります。日本では肉腫に対してはほとんど普及されておらず、これらの併用手術が良好な局所制御率と術後機能温存に大きく貢献すると期待されています。

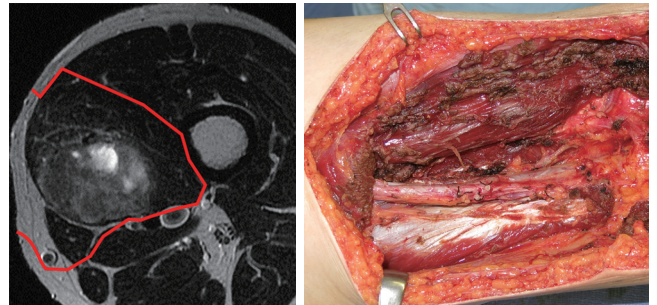


図1：大腿肉腫に対する大腿動静脈温存手術



左から、林卓馬（医長）、吉田雅博（リハビリテーション部長）、筑紫聡（整形外科部長）、小澤英史（医長）

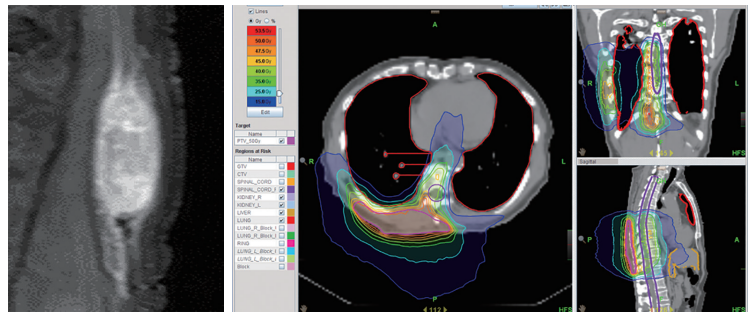


図2：背部浸潤性肉腫に対する術前IMRT

診療医の紹介 ◆ 中央病院～呼吸器内科部～

呼吸器内科は、胸部腫瘍の診断と治療（抗癌剤治療、分子標的薬治療、免疫治療）を担当しています。肺がんは難治性ですが治療法は飛躍的に進歩しています。肺がんのドライバーがん遺伝子変異（がん化に直接関連している遺伝子の変異）がいくつも発見され、がん遺伝子異常に対する最適な分子標的薬を選択（精密医療）することが出来るようになったからです。さらに、肺がんに有効な免疫治療も開発されました。呼吸器内科では、遺伝子診断を最短期間で行い最適な精密医療を提供します。



写真：前列左から、大矢医師、樋田呼吸器内科部長、堀尾外来部長、古田医師
後列左から、渡辺医長、上村医長、香川医師、山口医長、清水医長

メラノーマ治療の進歩と当院の皮膚科

中央病院～外来部～



外来部長

堀尾 芳嗣

皮膚がんには、基底細胞がん、有棘細胞がん、メラノーマ（悪性黒色腫）、乳房外パジェット病、血管肉腫などがあり、中でも黄色人種には発症が少ないメラノーマの治療の進歩が著しいです。抗PD-1抗体のニボルマブ（オプジーボ®）やペンブロリズマブ（キイトルーダ®）、抗CTLA-4抗体のイピリムマブ（ヤーボイ®）、BRAF阻害剤のベムラフェニブ（ゼルボラフ®）とダブラフェニブ（タフィンラー®）、MEK阻害剤のトラメチニブ（メキニスト®）が平成26年以降日本で薬事承認され、皮膚メラノーマや消化管等の粘膜メラノーマの治療成績の向上が見られています。

一方、平成13年4月から常勤皮膚科医師が不在であった当院の皮膚科は、平成27年10月に森真弓実先生が子育て支援プログラムの時短勤務の常勤医として勤務されたことより変化しつつあります。現在診療科部長不在の診療科として外来部の管理下にありますが、名古屋大学病院皮膚科の横田憲二先生の水曜日の外来診療応援もあり金曜日を除く平日に皮膚科診療が行われています。東海3県の皮膚がん症例が集中している名古屋大学病院のサポートは不可欠ですが当院の皮膚科も発展していくと思われまます。



左から、堀尾芳嗣（部長）、森真弓実（医長）

一般名	商品名	日本での薬事承認（年）
ダカルバジン	ダカルバジン	1985
ニボルマブ	オプジーボ	2014
ベムラフェニブ	ゼルボラフ	2014
イピリムマブ	ヤーボイ	2015
ダブラフェニブ	タフィンラー	2016
トラメチニブ	メキニスト	2016
ペンブロリズマブ	キイトルーダ	2016

メラノーマの治療薬

スタッフの紹介 ◆ 中央病院～緩和ケアセンター～

緩和ケアセンターでは、患者さんがもつ様々な困りごとを共に考え、解決するお手伝いをしています。患者さんだけでなく、配偶者・お子さんなどご家族のケア・退院後のケアも行っています。また、地域の皆さまと連携し、患者さんやご家族の生活を一緒に支えるお手伝いやカンファレンス等も行っています。

緩和ケア病棟はありませんが、通院中や在宅療養中の患者さんの急性期疼痛緩和に特化した「緊急緩和ケア病床」を2床設けています。ご活用ください。皆様からのご相談をお待ちしております。



写真：前列左から、向井未年子（ジェネラルマネージャー、がん看護専門看護師）、岩井美世子（がん看護専門看護師）、美濃屋亜矢子（緩和ケア認定看護師）、榎原久美子（看護師）

後列左から、松崎雅英（緩和薬物療法認定薬剤師）、徳永素子（緩和薬物療法認定薬剤師）、下山理史（緩和ケア部長/緩和ケアセンター長）、船崎初美（医療社会福祉士）、小森康永（精神腫瘍科部長）

第7回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

7月8日(土)、メルパルク名古屋において、近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第7回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました。150名もの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

当院診療科からの最新治療に関する話題提供に加え、緩和ケアについての特別講演があり、活発な意見交換も行われました。



医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科(精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのご案内

- ◎一般道路
 本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963
 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索